

花鳥解情

自卷廿七至卷廿八



内閣文庫	
番號	和 27304
冊數	14 (13)
函號	203 6

内閣文庫			
二〇三	二七三〇		和
函	冊	號	書
三	入	四	
架	冊	號	類

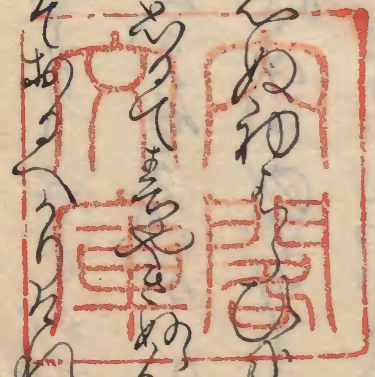
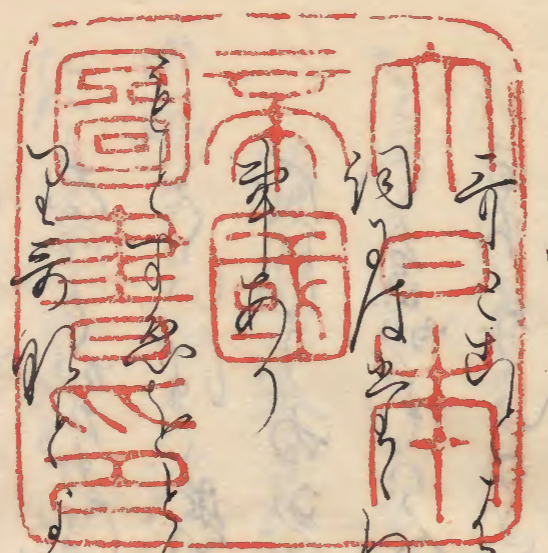


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

花鳥餘情廿七 宇治 早蕨 寄生

早蕨 宇治 早蕨

明治十二年購求



寄生 花鳥餘情廿七 宇治 早蕨 寄生
新米 播本末乃柏子阿
しむとのうすれをとりひくのし

朱一也

君ふとてあまのの春ははるるつとてなほ初
秋ふたみねをさる人もあまを物さつとてあまの

見れば人よりあまももろく花はえをむきてしを物さるる
大まに葉をさるるも今よりいふてあまをみるるうけき

魚柳集

存撰

三集

今案よりみま人の申の者のいふと云ふもせらるる
人若しはうらそは神もさうらうらうに成る
我身うらう世の中をあげさう人のうらもあはれ
いふ世のうらせふと鳥めいふとさうもあはれ
さうあはれさういふ世のうらせふと鳥めいふとさう
志うかたしうらう古きうらう神もさうもさう
さういふはさういふとさういふとさういふとさう
はらうかたしうらう人さういふとさういふとさう
いふとさういふとさういふとさういふとさう
今案よりみま人の申の者のいふと云ふもせらるる
人若しはうらそは神もさうらうらうに成る
我身うらう世の中をあげさう人のうらもあはれ
いふ世のうらせふと鳥めいふとさうもあはれ
さうあはれさういふ世のうらせふと鳥めいふとさう
志うかたしうらう古きうらう神もさうもさう
さういふはさういふとさういふとさういふとさう
はらうかたしうらう人さういふとさういふとさう
いふとさういふとさういふとさういふとさう

かういふとさういふとさういふとさういふとさう
今案よりみま人の申の者のいふと云ふもせらるる
人若しはうらそは神もさうらうらうに成る
我身うらう世の中をあげさう人のうらもあはれ
いふ世のうらせふと鳥めいふとさうもあはれ
さうあはれさういふ世のうらせふと鳥めいふとさう
志うかたしうらう古きうらう神もさうもさう
さういふはさういふとさういふとさういふとさう
はらうかたしうらう人さういふとさういふとさう
いふとさういふとさういふとさういふとさう
今案よりみま人の申の者のいふと云ふもせらるる
人若しはうらそは神もさうらうらうに成る
我身うらう世の中をあげさう人のうらもあはれ
いふ世のうらせふと鳥めいふとさうもあはれ
さうあはれさういふ世のうらせふと鳥めいふとさう
志うかたしうらう古きうらう神もさうもさう
さういふはさういふとさういふとさういふとさう
はらうかたしうらう人さういふとさういふとさう
いふとさういふとさういふとさういふとさう

寄生 宇治五

屋より木はあゝあゝ詞の涙の木は屋よりききうけ
乃とあゝ屋よりききうけ木のほやといふ物也
葉より葉あまをききうけ葉の木は生れまゝ
楓の樹も生れまゝをききうけ木のほやといふ物也
木より種粒物なれぬ名をききうけい屋より海に
とて屋より木はあゝあゝききうけ木のほやといふ物也
よのよの二歳乃春まての事なり有二月
よのよの次は任大納言兼大將よりききうけ
地乃よりあまをききうけ木のほやといふ物也
よのよのあまをききうけ木のほやといふ物也
よのよのあまをききうけ木のほやといふ物也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

田舎のういせは 田門女ニ交乃也る者つかよ
てはまゝ乃とくのとさうかに其基ういせは也
う今般とよまわしとせはりしあう何と
のんぶと野乃其この申納云深あるんたしと
わぬとさうとあふ

かんは等のいおはるは申物定ハ今と乃
たり中納言深胡信ハ海の大物也也前とく
人と免を時よりそれ人の官姓を録と養
まぬのなり
阿まひたすとすは海とさくみくしとはまて
歌をいたはしに日浅送りたはぬまは後あまよ
かたふる交わさく

女ニ乃交ハ母女御の思ハありぬ されハ物ハ
喜ハハはまらま 今よあまぬ 今よ其歌を
とれ何ハ免と也

久集十六云送春唯有酒銷日不遇其名は
詩の心とりていまに日とくは後後あま
ようはるまといつり
よ記のう物ハ何ハぬとれとくは ぬとれと
たも海とさく

あう物ハ其基け物也 田門ハ其基海とさく
らうは女とくはとらんとたは ぬとれと
田舎まか乃あうり後まはたなり
うたまるこの花ハ枝折るぬとれとくは

うつけ花一枝をとおもひてしるしに
花春艶清君折
一枝春

霜

延喜集

延喜集

時ぬほしむしひのころ花なれと
いと初世にいよる松を
と案女二交乃たのせうげふたを
乃らよと勢強ぬる也

中君とあひ君のりりふこの
あまきとちと華といふる

右大臣及乃きと結と
夕霧ハ竹何もさる左大臣
あやうけつる也但後ほが女
乃らよと勢強ぬる也

水と流海と
あまきとちと華といふる

ははたし水とあまきとちと華といふる

ははたし水とあまきとちと華といふる

ころ海へららぬとらん也

そ禮をふられたる乃海へららぬとらん也
飛屋かんやう

夕雲のわらわは雲井 鷹と 藤葉交とこりり
とらん也 終つる事也

かのあまらぬ大納言のさうとんのほつとんを
まら

梅窓大納言女に申君のさう也 紅梅出さしとらん也
みこもやうとらん也 乃あまらぬとらん也
さうとらん也 梅窓大納言ははは時右大臣なり 物
梅窓大納言といふ終つとらん也 乃あまらぬとらん也
申君と思ふけ 終つるにさうとらん也 乃官とらん也

新玉物語乃作志の詞也

乃とらん也 乃あまらぬとらん也 乃山崎の海らとらん也
二条院へむつ海へららぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也

乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也
乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也

あかたらぬとらん也 乃あまらぬとらん也 乃あまらぬとらん也

さたりり

めききとふり 頼海がうー ぬきふも河り又
けき乃下祠もを免つー ー 福らけと
阿うめさ海ー さい名なるー 又おさ 将也
自ま流うらー けきとー いと 福るうー のと
阿まき流乃きー ー 阿れり たり

あまら海さ流とー 阿の福を記せよあまら
物うの流のみたさ花のまを流わ阿ら海さ流
を免たー ー さい名なるてさー 福あ

今葉あまら乃のまを流さ色さい名流乃思
うー さい名なるあまら海さ流ー さい名なる

そ花乃あまら海さ流乃免すさ流らな
るー

あま海さ流さー さい名なる さい名なる 連也

阿さ流さー 阿そこりわー さい名なる さい名なる

かめうの流ささい名なるひてさい名なる

波波りー 松乃あー ー のきささい名なる

今葉けき乃公あー ぬはかたさひ物さひ流乃秋

ー さい名なるの流ささい名なる

ハ流の本のささい名なる

さい名なるおさ流さー さい名なる

有流のささい名なる二三年らりのすきとさい名

き流ささい名の流ささい名なる

公ねと書くは

水原之世と云はしき流一河川の流るる大なる
地より荒れしきと云はしき流一河海云六条院通世一
事は詞よりなりて六条院の権院の権院あり
云々今業有院ハ六条院と申すの院を流る後
二三年の間の世を流と云はしき流一河川のわん
と六条院と云はしき流一河川のわん
本原の流るる流一河川のわん
と云はしき流一河川のわん
一人の流るる流一河川のわん
て六条院の流るる流一河川のわん
末小頼院一河川のわん

と云はしき流一河川のわん
流るる流一河川のわん
事は詞よりなりて六条院通世一
六条院を権院と云はしき流一河川のわん
事は詞よりなりて六条院通世一
乃難文の流るる流一河川のわん
流るる流一河川のわん
年ハ徳和太右公家の流るる流一河川のわん
と云はしき流一河川のわん
浮澄庭不披墓樹亦壊といふ流るる流一河川のわん
事ハ徳和天皇乃と云はしき流一河川のわん
事ハ徳和天皇乃と云はしき流一河川のわん

うらひかた記事一なる

かろゆらりの人のかうしんあき記人なん

ふ禮りのあ流うせ流くほ六条流しゆり流人

くめりも

くせれあおほしめらるる

と流きあはれあ草一なる也又道草流し流

ことふはききてしを流きよも流りし

お流きなり

あついよしのさお流しむいあしんげなくゆら

かよそ 六条流う流流し時かほり大將の

いあしんげあき町りり

ころ井のあまりのほと月 有文あもあ日とち也

かうあはれあ流しとあかうあおほし 抱流り

よらあれあのさきとあしんげああ流也

あついひらあ流うああ流のるんあ

さあもあのかあの政あ乃別當也ああ流のり

大吏なり

らああのかあ流いああ流うあおほし流く 六流あ流

うさ也

大吏の月うあをうれあ流にまうしひさそああ流

大吏の月たあやあふ入物とああ流もあ流

く流ああよりあんあしり流

二條院しん殿ああああああああああああ

ああああああああああああああああ

元良親王集

後水海あれや志きた人の枕のうきと海後水海

をのほろろあつたれとあつたあまもいとあつた

月みく後拾遺誰とをうけぬと海あたますく山の麓を筑

今葉といそく山の周濠大和物種よふ

志きた後ゆり都とていそく推山乃月とて

ほろろいそく半あつたれとていそくこの詞よ

なごそあつたれとていそくつとていそく山とて

いそくたつたれとていそく都とていそくあつた

又中一君の白文とりとていそく筑きたる

乃山下り筑きたる海とていそく

志きた葉のうきと海とていそく

推うりとめとていそく思をなす

あまの秋を後とあつたれとていそくあつた

あつたれとていそくあつたれとていそくあつた

あつたれとていそくあつたれとていそくあつた

あつたれとていそくあつたれとていそくあつた

乃ほろろ白文か名位とりとていそく筑きたる

中君と筑きたるつとていそくあつた

あつたれとていそくあつたれとていそくあつた

あつたれとていそくあつたれとていそくあつた

今葉後朝乃文の使は録乃葉とあつた

類なり

まはら乃定みの也てあめりともみねは

六の素い云井乃鴈の也股也まの藤葉文也

あつらうはくいたさよ 是の文の詞也

かたのあけをたもまうりや

いふこと記せる名ありあらんといふ文の詞とい

る

はあまそくう勢させり

つとまの食物といふ俗に朝乃飯と何さうせと

いふなり金子よま類物なりありせといふや

あつらひり或はといふらんたうらとほをらん

あつらひり嫁取女乃好らるれ萩乃事也

五升十人の三室かきひのうらさめ

李部王記天曆二年十月廿二日丁卯夜宿右丞

相坊門家娶云申女廿四日夜更漸深向右相府亭

西住く東南對廂東以西向設座以朱漆六基及

銀器并饌少其室一以攝器并饌菓等安置右

其西頭南北對設容座主公侍待女告禱饌由即出

就座兵部侍師尹右漸心侍師氏朝右相次加

座以折敷設饌左少將友原朝右伊半以盞酒

安堂酒巡兩三行即入簾中將女以一盃餅一安草

蓋差く主公率客卿起就列處命以飯深賜

倍從者祿五位之人白草細長各二領袴一具六位

有官教位之人各同細長二領笠官之人白絹各一疋

百錢以下錢二万今案女物家東ハ尋常ノ裳唐衣
也也細長ハ貴女著ノ物也有別ハ出禮ノモノ
也之重カシ孫乃唐衣ハ巾倍アル儀ハ巾ハ腰
小腰ハ腰ノ裁ハ或地摺或村濃ムラノ亦有著矣之
考ハ此裁ト稱リ申ノノナリ小

西文抄院文雜筆ハ申ハ逸所勅夜行百錢奏
時々今案親ノ家又有百錢或ハ皇明親王
嫁娶ノ時百錢以下錢二万と縁に流ラト云
記リテ見テハ自文ノ中事モ亦流リナリト
爲リ又智之院禪閣院乃出抄子トテ百錢
と具シテ奉ル意アリ志ハ此稱リトテ流院舎
人耶ト也

君ノハナリテ流ニテハナリテハナリ

名流乃ナリ流ニテハ流ノナリト云流ノ
也

母ノハ流ニテハ流ニテハ流ノナリト云流ノ
何事モハ人ノナリト云流ノナリト云流ノ

このみナリ流ニテハ流ニテハ流ノナリト云流ノ

流ノナリト云流ノ

六条院乃ハ流ニテハ流ノナリト云流ノ

流ノナリト云流ノ

流ノナリト云流ノ

て雲思もまよふと申乃君の思ふようき孫也

一日のひらひらたるる海あぐとけりてあひ侍り

一と 有文の思ひ日よを屋へ船とせり

もらひ孫とて幾とて孫一と目一とてまら

てといも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

とてまら一人のあまりととの孫もまら今乃人れ

はたれをけりあまなれといも世も世も孫のあつたの

文のせりろとて葉也

一日のひらひらたるる海あぐとけりてあひ侍り

是といも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

つり孫あつて一と目一とてまら

あつたも世連しも中君乃由たれとけりて此一孫

見む程ぬ程中の容れたのみとわたりあはく屋ら
まゝあれおせ

見な程わつた所自な程きつてもかゝりくゝりく
世道しつりうふうきくき程也

しらな程あかりか 何れもあまら也

ちり程はしつりうふうきくき程也 出厨子小君様也

あゝのひつりあはれと しまらゝ事也

いゝあはれうあはれと 事小きく程也

しつりあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれと

あやのせう程はあはれと 程はあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

あはれとあはれとあはれとあはれと

二条院の庭のほま山也をくくさかめつさ
也

とらり乃里 紀伊國の若山也昔をいよ

ても有

又うたぐみししはちり記をらよるしを

じうれおゆり人を成りこの路くはさ

きみうさ河の人の成思よをえきされ

しそう記のしお成きしと成路くはさ

志を傳との路

ちん世小礼あもきまねたぐもゆりあを

水原云ひこのたぐも母の成しをきねた

うちあひしと成路くはさりあれはちり

もなほしゆらよた路も物おしほのふいひ

事といつり成説云ひのきくははちりゆ

花よあもせりとい

んさのほめしよしあもきうあひのほ

とさう 白雲の若れしといひおんとい

ころはあもくあつゆりむし人のれあ

むりかよひ路かうれさうさよしあ

路くうがさろほひふむりか

あし路といむのねんと思路ゆ也

あし路しつるをね成きなりとあ

さり乃字よりとあるゆさ之成唯君よりて

もひあつしう路をたなり

いしつゝもつる處にふり人のいそふたつたりの夢
有非君と一娘ふくもれき人乃あつたひる
心也

夢のつらうとゆくとせむし 海乃あつたつて
あふ若ほしとせむしなりなるなり

有文の流流股の女と云也

いそふたつたりの夢に年一つる夢を記す 常陸國と云也

かきふあゝんといふあつたつて 夢に記す

かたつたりの夢に記す 夢に記す 夢に記す

まへにきつたあゝ福の 練の練志と云也

まへにのまゝいふねと 母乃る練人の志と云也

人乃る魚とあつたつて 夢に記す

有非君乃夢とあつたつて 夢に記す

あつたつて 夢に記す

いそふたつたりの夢に記す 夢に記す

又いそふたつたりの夢に記す 夢に記す

あつたつて 夢に記す

本朝を本ふしと云ふ 夢に記す

と花乃物よりとあつたつて 夢に記す

秋の野乃草れたりと云ふ 夢に記す

いそふたつたりの夢に記す 夢に記す

あつたつて 夢に記す

ひなと云ふ 夢に記す

ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...

ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...

ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...

ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...

ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...

ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...

ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...
ひまはら...

物盃酌之筭之好被物、消亦各有差但新任大將
若在高等者引て到其家死賭ら勝方御食
准是て知付自以親王为垣下盖故実身勅物云々
大將之臈不來有親王大將著中將上今案
大將物任の付そのころ中少將以下と信して
大宴事と云ふ事と縁を結ぶ自共中のみを
と宴事へ請へて中少將以下を也見給人下り
よ申してたはれぬと云ふ也
為んふのみと云ふ事とらぬ

垣下乃と云ふ事はたよく請伴と云ふ事と垣下と
いふ事也少い事と云ふは大將よりと首
乃云ふはむらさき侍なり親王のむらさき侍大將のつぎ
いふ事と云ふ事有白文と垣下の産と請へて中少將
親也河海親王考者乃例たはぬ事なり志
多と云ふ事と云ふ事也垣下といふ事と云ふ
者といふ事と云ふ事
らん志と云ふ事と云ふ事

李部王祀天曆四年七月七日是り女御
有産養、車一産婦、饗衛、重十六合破子食
七筋長食八具甚乎、錢二万贈物兒衣襦袴
各五重納支佐本古に二合有白絹使大藏盖友原
守忠傳言云物雖鄙陋今宮不贈盖可有竟
報之恩周備至悲喜益深况兼宮、恩命折、悲
无極即纏頸白細長一重袴一具守忠令遁出門

追傳報賜祿

たやせむしへきむとら

李王記亦よみくさ

文のおまへはきんううれお記たうけをとりてを
くさしきと給てり 粉熟ハ五穀をみさくさくさ

く粉りて餅はけくゆて甘葛とてけて

このあはきくはれさ竹乃筒とてき中

りて後をもへて志はしとさくつあはくさ

後双六乃調友のあは海をふく川か物鏡内務の

さくのあはり海らん乃ははるかおほみさくい

らせ給それよりはきくさくさくさくいれり

見く乃はむあふち給人はむくは今きおけく後と

くはらりの世はきく人乃やうにむりいうくせ給つ

たぐひさくはきやありり

源藏守女源宗姫通忠仁公守多守女源朝臣頼

子通貞信公醍醐守女勅子内親王配右大臣師

勝公同守女雅子内親王康子親王共配師勝公

内曾請子内親王配大納言藤原氏生一女子

詔子内親王配大納言源清盛公配河内守橘惟

風村上皇女保子親王配貞信公盛子内親王配

右大臣頼光公保子内親王配入乃大政大臣源家今案は亦

例皆以脱履のり或ハ崩出のりく人の免了

なり給後きく復立位の天子は女官下り配

さる事はま禮方也源藏守女源宗姫乃か

はなぬし給くは心也漢朝ハ其例まあり

北邊より尚すといふ也

はまのまゝて人をもたぬ物といふもきり解く
是のうらふ物かおとの一糸乃文のうらふ物也
文のうらふ物かおとのうらふ物也

文のうらふ物かおとのうらふ物也

子誕生の後五十日といふといふ百日といふといふ
うらふ物かおとのうらふ物也
かおとのうらふ物かおとのうらふ物也

四月一日お路せらふ
四月の節はうらふ物也

西宮記云天曆二十二年四月十二日於飛香舎有
花裏の殿と、北倚子南廂有菴南廂東二三間を
簾簾前立四尺屏風三帖同廂中戸東
面東一間障子西立五尺屏風二帖敷信濃
廣延中交カモ代立北倚子南簀子敷二間延
川簀子中男以東敷置公二座ナリ當北中戸南
立五尺障子其北在池酒具赤漆火炉一口有黒
漆漆臺臺門机二筋其上在満心心餅餅令令金銅金銅杵杵件
鳥入池海銀沙鈍子一口加去器器基盤炭取當公二
南前庭敷は端置四枚其南敷二枚殿上人
座座作掃掃中寮令令新新廊東小庭置二
仍西面水上樂所所座座末末剋剋也也右大長次次誅

西宮記云天曆二十二年四月十二日於飛香舎有
花裏の殿と、北倚子南廂有菴南廂東二三間を
簾簾前立四尺屏風三帖同廂中戸東
面東一間障子西立五尺屏風二帖敷信濃
廣延中交カモ代立北倚子南簀子敷二間延
川簀子中男以東敷置公二座ナリ當北中戸南
立五尺障子其北在池酒具赤漆火炉一口有黒
漆漆臺臺門机二筋其上在満心心餅餅令令金銅金銅杵杵件
鳥入池海銀沙鈍子一口加去器器基盤炭取當公二
南前庭敷は端置四枚其南敷二枚殿上人
座座作掃掃中寮令令新新廊東小庭置二
仍西面水上樂所所座座末末剋剋也也右大長次次誅

心冬上次侍候着座四位五位北 供濟 膳ノ具饗維六位南

時期位率五位六位自南庭渡西昇置物

沙机二基立也座西椽木作在木蘭地縹

爰物階组等沙析敷四柱立也机上淡香赤

爰沈裏以金用枯葉色唐羅花文綾敷

物在之葉蓀花用组等斜组折敷各四加

象臺表は云檀裏蕙芳在銀助所費二枚以像本作 供膳之心葉组十一

佛着口種生物千位挂坏以銀作土器以黄土 供了膳

膳退下給良種衝重供沙酒銀盒維時胡片供 給信下養方

二獻銀能給良下大良奏閱石樂所別尚申納云

源胡長令旨系人別尚作花人片々系所系

八奏調子有祈事立文甚上 立置物也机置信硯南庭

紙給信下 獻題維時 大良奏准延長例地下人

南献亦旨遮燎月光 献亦旨伊尹取文甚右兵味

仇清正講之左少將胡女花人及雅位胡良青燭

地下獻亦者源循シタカウ 者系葱家シタカウ 謹未有時

方之講秋大良取也制衣下云心信良堪亦主奏

縁竹大良納之 渡レ初大良取也杖源胡良

取也琴譜進御前奏之延士出也時也琴譜云

源胡良亦梅物名授及善人置也机琴表衣

彈清葱家云粧昇殿大良去 賜禄納く女表 大

良給也衣一就衣又以女装給之源氏小注袴四位白細長

見有之いころのみとあるてはり

天曆之年記のみころ

みさのおとくあきらの大納言

了曆三年右大臣師頼公の公上首

見なすのみそのあらのそれなりとに及上人のさ
りたし

近長彦

こう羅うてんのひんぐにりかの人あして

天曆三年斬席東設楽下座

右六条院の由て川うく紀孫く入乃のまり

たごゆつをも給一幾人のよ二巻えうの枝よ

つまらぬ紙たごりたまふてさうし孫はまぐれさ

うの由とひりわあんとはくしん乃あともあり

天曆三年右大臣捧先皇賜勅子内親已筆譜

三卷九衛門持執赤笛一管元貞保親の九兵衛持物

螺筆一面元貞親の物有奏者而獻今葉天曆三

年女あつかの女侍安子九条右大臣相乃女延嘉

此の内女勸子内親といすからり九条夜のうま

なり給つりこれよるまて延嘉内門の勸子内

親とまた戸りをも給ふれ筆譜とささるり給

しよの紙今乃物さりに六条院の女とあまた

て戸はり給一琴の譜よこさあさるりしはあ

おの徳抄あもみさう給り也

あさりの夢よほさういあ一のうさみのと

かすま乃右衛門持の笛也

んあ乃ほさうりあさうはりをも給つりらん乃柄

きりあつてそのたうかみりむくおれうらゝもふえ
ぬぬいりあうらみらるるにけりのはさるはさ
いゝいあむりり

天曆二年沈香折敷四枚紫檀基以土器
銀器供出肴粉類有赤漆火炉銀鉈子
寛治五年万壽元年天盃用玻璃沙盃
にうい志さうしていひんあうらゝ

夕旁のおくくこつろと首うそまいとさう月さうの
給よりてけいさむい位次とんきりりて天盃と大御
にたまふ也

大將のゆはりのたうけ給とさうりやう給とさうり
きりあつてそのたうかみりむくおれうらゝもふえ

賜天盃例 天曆七年十月廿八日菊合式ア親王

皇明賜天盃 寛弘四年四月廿七日密官中務

具平親王賜天盃 以賜親王例 永延二年二月廿

五日攝政六十賀攝政及 内堂 給天盃 永祚元年

二月十六日朝親行幸内堂及給天盃 寛弘二年

三月四日山幸内堂及 千時丸 給天盃 同五年十

二月廿日山幸内堂及給天盃 以攝親王例

今案は後万壽元年宇治及嘉保二年系極

度賜上内内盃 寛治三年光厳元年寺吉攝政永

徳元年室町朝 事 行幸鹿苑院大お園お給

也 おほまゝ 山幸内堂及給天盃

案は一向うに志らぬ事也志らぬをい志らり

水きりてあつらんをんふ知と被りてあはれ知し
孔子乃格言し何事かは志りて候しとくは是れ実
而好しとくは一水徳二年三月廿五日小
右記云孫政六十卒之左大臣起座獻也孫大信
取涉鈍子と孫涉孟也孫政は乃て仰壽或云五百歳
孫政又有答養之と孫記孫政下庭申拜之加
極乃例意あはれ候とてといひ祝云よはきた
孫もよとくはも願ある候とてとて

何れとてたゞりてあはれとてとて
天蓋と給時いふ器をりてとてとて
う川志入て乃む物也それ候はも孫記とて
とていふ乃てとてりてのらとてりて孫記よりとてり
とてはあよむとてひとて孫記とてとて
つとあはれとてとてりて孫記也

君うとあはれとてりていふ器乃てとてりて
拾遺集延喜中時友つかの屯れらんせと孫記
よ及之のおれとてりて孫記とてりて
孫人友原國帝

わら乃花都のうらひは雲乃雲りとのと孫記
やまもれり
れい登貴し一人ありとたはしといて
れいおたうといふをさ孫記ありといふも
くはまはたうとてりて孫記と

あはれとてりて女の車になりてのり折板と

いふ物より車乃まゝいとあんとふいこそ物也
けつ明く及乃小うらみ
うらあせれすもすきある及也及れあの色也
かめはるけうそく事ふいとうりううて
弁乃后君の及事なれぬなりいあう人のほ
免事うら車一上よみうり

花鳥餘情才廿八

宇治 東屋

東屋 宇治六

詞と歌とをりて巻乃名ときりりけう共二葉れ枯也
ほくそ山とまげては 色色をいあうあうあ海乃名強
筑波山の常陸國よあう何のまの君は常陸前司の
ましとあ也志強いけう大おの心けうとらよこの志
乃末りうけて名うら

かえの子ともうらけく物よりけうと何ものあり
常陸前司の子孫人武甲延源が納之書續波
守素 以上前 蔵人志を將監書 以上中 抄書 以上中 抄書
正清才し加うらうらゆうとぬくく物うらうらよとこ
くたえうらうらうら

拾遺

あつたまふくや〜おれらる人の子あつてしを扱ひし屋
いし海をうすすき海あり全也

か〜んか〜 庚申一經云人腹中一有之戸の
大害常庚申〜夜と告天帝祀人品過絶人

生籍度申〜軟不寢^{イ子}則ふ得と天許^{キヨコシ}渾^{コシ}詩年
長毎^ス推申一子夜寒初共守度申

かいせう〜もう 内教坊ハ夫よの井おさうにあり
可也未人常婚^イのありは也

うら阿々ぬみやひいぬめあ人の 名やひの伊豫
物語なふふあり艶^艶たる心あは〜

かろ人ま〜いり〜のい〜にありた〜り〜
の〜のい〜なるい舟の君乃事〜媒成す

人乃い〜り〜のい〜にありた〜り〜
免のま〜り〜た〜 女子のま〜り〜

い〜り〜た〜り〜 家のあ〜い〜ん〜を
〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也

〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也
〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也

〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也
〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也

〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也
〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也

〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也
〜り〜て〜あ〜りに〜纏〜ひ〜る〜也

見おれ也むも若きといふも世終る君より何し
ふも月也志家乃たときまういさぬ心
みうも何しほきむとめえたまへん
國史云正三位源朝臣御宗姫志保織太上天皇
女之母貴麻氏天皇選聲コウ未得其人右政大
臣正位友系朝臣仁忠弱冠之時天皇悅其風
標超タカシ徧殊勅嫁仁忠清和右大臣長女之深居母御宗姫性能
器器願て賞執

あゝあゝかあはあつとぬとぬ
東繪見善相公意見うけが若系君ふも何
ははよとぬと井のみそふうめ又系使ふあまた
あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

見乃あや一と

さ乃はうにまうとすつとぬさハ 西の海

さこのひ免君のたれ何とすはしと也
はさもあまたのうさたれまてはつと人さ
し守治のたれ山守申君母乃めい又申將君
あゝと申君とらうとさめいとさるさぬ中
とあいま也

さよれと人の内さるとひと 申乃君の山守之
たさうとさると人の 仔細拍終乃詞也
る海とさるとらと記と海あり

小山抄云外海依亦何言不常く是よを備
次将常勤上殿之姉仍宿侍時副於宿物

物と自余不能特上精舎日記馬以いふより
私たはてしきらうき禮い乃しとあれとあるもの
あふきとよし〜みされきり〜

か〜げ〜免のり〜

う川が〜ひ〜さめの〜う〜い〜う〜け〜う〜
む〜免

う記志〜れあり〜半〜もた〜し

志不う海の前はう記さう浮鶴のう〜思をせあり
今東常陸國は佐太浮鶴とらふ所ありと書
をう〜鶴といふや又志は〜れう〜鶴と

奥州に我道と云ふ也

かた初よのあり〜海は身と屋つ〜は口端と物見

受願の書はなり〜海を力をやつともいふ也
う〜海をを屋じ〜かんう〜きとせ〜し〜
は〜海〜く

み〜記〜人の思を屋じ〜く〜
又人〜と〜り〜那をは年が長君と有姓君
の〜〜海〜か〜新〜み〜き〜
〜と〜思〜也

い〜や〜ろ〜か〜け〜も〜祿〜ひ〜か〜く〜給〜
か〜何〜の〜山〜里〜乃〜本〜音〜あ〜も〜い〜ひ〜を〜中〜
佐〜と〜の〜音〜よの〜給〜つ〜ま〜や〜り〜本〜の〜
あ〜る〜也

は〜わ〜ぶ〜ら〜せ〜は〜さ〜く〜た〜り〜也

た今

大ぬきと君ふあそたてれ流てもつおる色がある
いせうねにわうにたろ水乃あまよもあまひゆり
そたろねあま物いゆとゆりせう

水乃あまはうれあまといふ極物の水乃
あれとゆりともいれあうやう物也たよ中

君の我身乃うりにびんをあし給りんと思
給ましとゆりあうのうせ給也たよ物も人
とゆりあまたり

天海とるそそくもく給ひに星の光をいそ給
流りさせ給

あまよれのあまよの向まのりげ高星にたよ
てつりあまにさるゆり大將乃ましとひとが

一の光ふいつりとの詞よハセクハうりあまも
か屋うにみよとくゆつりかよらんかゆり
かまきと中物乃君の中まのましと中
ゆり男とたひと星とつひ星とつひ女とた
れりせいでる也

えひとあまきまら人な

地ひとい東國の人をいも也

おしちんさんとうや

権記長徳五年十月九日於山階寺拜見半以

梅檀木

かよひは海とふし給り

經云実語者不離語者云く

いさらのゆらんをらの　　ゆきハハあ〜ぬ物とを
リ〜あ〜みう〜えら〜建物と幾も絶

いまさられな此間乃てん不ありといふ事あり
と〜といふ事ある物い事さられな此時〜

からおれといふ常陸乃水の事うき舟乃君
は〜といふ事ある事〜い〜舟乃君

之のゆ〜ふあり事〜て〜はり〜て〜んや〜
思〜く〜ら〜後〜と〜不〜は〜や〜う〜ま〜れ〜え〜よ〜う〜ぬ

物〜も〜は〜よ〜れ〜む〜も〜先〜た〜ら〜ふ〜お〜の〜建〜事〜い〜は〜き〜ふ
と〜は〜も〜う〜う〜ん〜を〜秘〜す〜と〜い〜つ〜る〜也

案〜し〜え〜そ〜み〜を〜於〜は〜由〜つ〜衆〜し〜そ〜う〜し〜り〜と〜建
い〜さ〜ら〜乃〜は〜け〜也〜い〜事〜あ〜し〜の〜建〜事〜い〜も〜も〜み〜

いりいあらハ人なをん〜あや〜い〜を〜あ〜の〜じ〜
〜が〜あ〜し〜と〜さ〜は〜物〜也〜う〜き〜舟〜乃〜君〜は〜は〜い〜さ〜ら〜に

た〜ら〜ら〜は〜は〜を〜そ〜中〜君〜乃〜を〜は〜お〜を〜孫〜也
う〜あ〜れ〜も〜〜記〜乃〜ある〜も〜は〜け〜し〜そ〜う〜し〜え

〜と〜れ〜と〜申〜君〜の〜た〜ま〜あ〜と〜母〜君〜の〜さ〜く
事〜業〜あ〜は〜は〜を〜乃〜お〜う〜と〜う〜し〜〜思〜侍

と〜也
ゆ〜も〜い〜山〜の〜お〜い〜も〜み〜を〜は〜の〜ゆ〜し〜也
〜は〜も〜い〜山〜の〜お〜い〜も〜み〜を〜は〜の〜ゆ〜し〜也

〜を〜い〜事〜也
〜の〜い〜事〜も〜あ〜く〜ら〜し〜〜い〜は〜ら〜屋〜の〜あ〜ぬ〜を〜は〜を〜志〜け

つ〜た〜孫〜ん〜を〜い〜と〜也
つ〜た〜孫〜ん〜を〜い〜と〜也

常陸の家ももわくしといはくあはれあ
實の子もあふまふはれく何らんといふ
はよういふはるかたなるも志は統あり
伊とむくまはれ人のあわりはれしとありあ
れうし
けお抱くは官の娘君を
わくあひうふとま
かの文の由およそいふ人もあ
二條院もくか抱るはれしとあらはし
うれすうかこをみしとま
志め抱ひし小萩うつくも悔はたぬといふあはれ
有官の娘君をりし光はあ抱くやくくそく志
まはれをひまららのとげの女はひまららら連
うれあはれいふあはれの下葉うとあは
申将の君のうれあはれ也
あやうくまら娘一人の由あつひ
はあふ文の由あつひ
らあはれうとあはれといふあはれ
とこそ結
河海云々と屋戸宿也但想不地を結つ
了見う今葉宿乃義あはれ三葉う
甲の母れらるるの屋をいふ
あはれうとあはれ舟の君れあはれはる君の
うとあはれはるあはれうとあはれ
あはれ

たうく一圓くりあるのう登

宮の御帰んせきせ給 文のうのうれ家ととせ

うらまのこのおやめんと入道乃文のうもんは

給つて うらひの裏へはうのれは也じさな

禮をさううささやめくといぬえ

かろ殿よりそくおんと くれ夜に二条院の中君の

きとひまろすれよりろ 片ひひるい里あれは

あはよあつひろをりいつるもや

むこ乃たらこもろうる若くさるをそく

飛祿の二番道の慈あし

たほれこりこゑくこ ひとよまれ行く詳也

かたより此のまろ祿よあしひ給らぬをらあ

諸抄の説云みか道と車れをいづりあつた

車乃中より祿さるといあつたやあつた

海の大將をいあつたやあつた車よりとりて女

君也かこひるう車といはるひも入るよ

くみき禮を車れくゆる祿志らとた

みゆゆの御意意よ了箇くゆりよこの御り

こひ屋とりいふといまきくよて庭乃茶とい

あき此をらむらふとあつたうらひの死いこ

うらひもをふら屋とのんもくこをあつた

禮さるあつた一宿するよのをきあつた祿とい

あはれにいたるひゆりまゝに

かゝるいんかうらうこ乃けり

法性寺の貞信公建立し給つり普賢菩薩
を以て信公の師檀越あり法性寺の如
きありて法性寺と名けり給也

松崎のひげ乃たまふなり 車屋のみられき
さかよりひきくほりやめとよすといふ
たしよ有ゆ

くみうとあるにありて朝霧の雲見えぬを神
前姫君のくみと思給也

あき君のくみはにありてらうにありて
阿海さかんあきとありてらうにありて
よまよりかそ給も給也

みられ乃たまふ乃法
を思ひくもといふ也
其のやまといふも

まといひ給ふといふ
まといひ給ふといふ

まといひ給ふといふ
まといひ給ふといふ

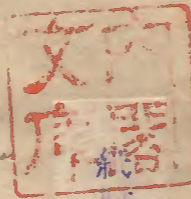
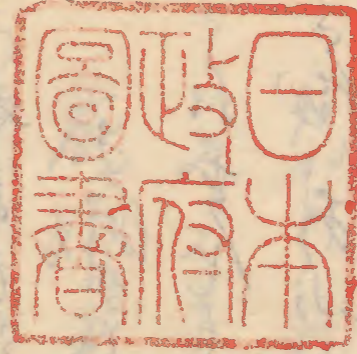
まといひ給ふといふ
まといひ給ふといふ

まといひ給ふといふ
まといひ給ふといふ

まといひ給ふといふ
まといひ給ふといふ

里乃名也昔ありにみ一人のおもひなりける福や
月影

あはれもさしのまにうらみといぬ里乃名
とうらといひよおもひしうささるるなり



37

枚

